

算 数 指 導 部

1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

ー 算数の授業を通じた「表現力」と「コミュニケーション力」の育成 ー

2 育てたい力

◆表現力

- 求められていることを正しく理解する。（読む・聞く）
- 自分なりの意見や考えを持つ。
- 正しく問題を解く。（算数としての「表現・処理」能力）

◆コミュニケーション力

- 自己解決するだけでなく、思いや考えを正しく共有し、よりよく解決しようとする。
- 常に相手を意識し、実態や場に応じた伝達方法で的確に伝えようとする。

3 研究の視点と手だて

〔視点１〕 算数科の基礎基本の定着を図る指導のあり方

- 指導や支援の工夫
- 算数として必要な話し方、聞き方スキルの定着

〔視点２〕 算数的表現力を高めるための指導のあり方

- 学習活動、学習形態の工夫
- いろいろな表現活動の工夫
（言葉での表現、式での表現、図での表現、操作での表現）

〔視点３〕 コミュニケーション力（関わる力）を育てる授業のあり方

- 関わる力を育てるための場の設定（言語環境、学習環境、雰囲気作り）
- 話し合いに有効ないろいろな方法やスキルの習得

算数指導部 成果と課題

1 成果と課題

〔視点1〕算数科の基礎基本の定着を図る指導のあり方

○低学年では少人数指導を行ってきた。集団の規模が小さいことで、十分に教師の目が行き届いた。3～6年においては習熟度別指導のメリットを生かして、一人一人に合った必要な支援ができるよう心がけてきた。段階やペースが似通った児童であるため、事前につまづきを予測し、ポイントを押さえた指導ができた。

▲低学年は集団の母体が学級ではあるが單元ごとにメンバーが違い、3～6年においては学級の混ざった集団であるので、継続的な練習が必要なスキル面の定着という点では課題が残った。

〔視点2〕算数的表現力を高めるための指導のあり方

○ペア学習、グループ学習、一斉での話し合い、個別の支援など、必要に応じて使い分けながら児童がより分かりやすい学習形態、学習活動になるよう工夫してきた。

また、話し合い活動を多く取り入れ、「自分の考えをまとめる・伝える」ことを常に意識して学習を進めてきた。児童の中で、算数は表現・処理能力を高めるだけでなくそこに至るまでの過程も大切であるという気持ちが持てるようになってきている。

▲活動が多岐に分かれたときの場の保障、それぞれの学習ペースが違ってきたときの学習活動のあり方については、今後も工夫が必要である。また児童の思考が多様化してきたときに対応できる教師自身の指導力もより必要になっていくと思われる。

〔視点3〕コミュニケーション力（関わる力）を育てる授業のあり方

○自分で問題を解いて終わりではなく、それをペアやグループ、友達が作った問題を解き合ったり説明しあったりする活動や場を意図的に設定してきた。言葉や図などを用いてより分かりやすく表現しようという姿勢、友達の考えを大切にしていこうという気持ちが育ちつつある。

○少人数であることで安心して発言できたり、学習の中で活躍できる児童もいる。
G3段階では話し合いを深めることまではまだ難しいが、発言の回数も増え、認めてもらえることで成就感、満足感をもつ児童もみられる。

▲相互コミュニケーションでは、スキル面の向上だけでなく、安心して話せる環境も大切である。落ちついて学習できる人的、物的環境を整えていくことも大切であろう。

また、スキル面については、集団ごとに約束ごとが違うのではなかなか定着や積み重ねまではいかないので、学年の縦の系列を意識して統一すべき事柄も必要ではないかと思われる。

2 まとめ

児童・教師とも、算数というと、「表現・処理」面の速さ、確実さ、得点にだけ注目されがちな面がある。今回は研究テーマを受け、そこに至るまでの過程を大切にするという意識を持たせる指導のあり方を探ってきた。

2年生では、友達の考えを共有するという活動が続けることで、コミュニケーションに必要な「相手意識」が芽生えてきている。

G3段階の児童は個人差も大きく知識の詰め込みになりがちであるが、児童一人一人の思考の特性などを指導者がしっかりと掌握し、足りない部分を別の方法で補ったり教師が補足してあげれば一方的な伝達でなく、相互コミュニケーションは成り立たせることはできる。

どの学年でもどの段階の児童でも、工夫次第でその段階の児童なりの話し合い活動はできることがわかった。算数の授業や児童に対する教師の意識が大きく変わってきたことも成果といえる。